

# キムタン紅茶物語【第4話】

8年半ぶりのネパール、  
そしてキムタン紅茶農園への訪問

こんにちは。ウインドファームスタッフのタマング・スーザンです。  
2022年9月、故郷ネパールに帰国しました。

## 豊かな自然に囲まれた キムタン紅茶農園

朝、降りしきる雨のなか、カトマンズから車で出発しました。都市を走り抜けると、窓からはネパールならではの景色がたくさん見えてきます。窓を開けると、山の匂いや収穫前の稲の甘い香りが漂ってきました。

キムタン村から遠く、ヒマラヤ山脈のひとつ、「ガネッシュ・ヒマル」が望める。手前には朝霧に濡れる茶葉。



ウインドファームでの取組みについて話をスーザン(中央)

こえて見に行ったら、鶏がさばかれています。その日の夜には、ネパールの豆のスープ(ダルバート)と鶏のカレーを美味しくいただきました。ケルンさんの生活スタイルを見て、自給自足は本当に楽しく、そして大事だと思いました。

世界中に新型コロナウイルスが広がった時、ロククダウンで店が閉まり、お金を持っているのに食べたい物を買えない人たちがいました。それを見て、自分の食べるものを自分で作るのが大事だと思いました。いつどこで何が起こるか、どんな自然災害が起こるか分からないこの世界では、自給自足のライフスタイルはとてもよいと思います。

## 自給自足的なケルンさんの生活空間

農法、フェアトレードのことを説明しました。

話の途中で動物の鳴き声が聞

翌朝、キムタン村の山から昇る朝日で、村全体は黄金色に輝きます。それはまるで天国のようでした。そして鳥たちの鳴き声を聴きながらみんなでチャイを飲みました。その日の朝は本当に幸せを感じました。

## キムタン紅茶農園と 製造工場の見学

朝ごはんを食べ終えると、紅茶農園の見学が始まります。紅茶栽培は、丸ごと一つの山で行われていました。農園の周りをシカが走っている景色は印象的でした。

ピカピカに光る茶葉の手摘み作業は、山麓から始まります。3週間ほどかけて山頂周辺の茶木の葉を摘む頃には、最初に収穫した麓の茶木に付いた新たな茶葉が収穫できるそうです。今は農園が広がり、年間を通していつでも茶葉を収穫できることでした。

農園の見学の後、紅茶の製造工場に向かいました。工場の中には5台の機械が置いてありました。その中の1台は、電力不足のため使われていませんでした。今後その機械を使ってもっと品質の良い紅茶を作る予定ですが、ケルンさんは機械を動かす電力を得るため、国の様々な機関に働きかけているそうです。

## 慎重かつ丁寧に行われる 紅茶の発酵作業

今回の工場見学を通して、一番印象に残ったことは、紅茶の発酵作業でした。その作業においては、工場内に匂いを一切持ち込んではいけません。作業する人は香水も付けません。なぜなら発酵している紅茶は、周りの匂いをすべて吸収してしまうからです。そのため、発酵作業中、作業する人はシャワーを浴びて、きれいな作業服を着ることになっています。紅茶の発酵作業はとても慎重に行われていました。



紅茶農園へと向かう道



紅茶製造工場で見学した茶葉を乾燥

キムタン紅茶農園との別れの時間、ケルンさんは自分の紅茶が日本に届くようにしてくれた事にたいして、自分の帽子を外してお辞儀をしながら感謝します。私は自分より年上の人がそうしているのを見て、自分がした小さな事でも誰かがこんなに喜んでくれていることを実感しました。

私はケルンさんと抱き合い、これからもっと紅茶を日本で販売できるように頑張ると約束しました。



スーザンがドローンで撮影したキムタン紅茶農園